

提出期限：令和7年3月21日(金)

令和 7 年 3 月 21 日

山形大学「つなぐちから。」 社会共創活動推進プロジェクト
実施報告書

報告者名	高澤 由美	
団体名および構成員 ※団体で活動を行った場合のみ記載 (欄が足りない場合は行を追加して記入してください。)	団体名	
	氏名	所属
活動名	まちへの愛着とみどりを育むちいさな社会実験	
連携して活動を行ったプラットフォーム加盟機関名	山形市	
活動報告	<p>《活動内容》</p> <p>山形市中心市街地の大規模再開発期間における暫定的な土地利用手法の提案として、住民参加型まちづくりによる花植え活動を行った。</p> <p>活動の広報は、山形市役所、山形市立第一小学校、やまがたクリエイティブシティセンターQ1での広告配布、その他市内での広告掲示によって参加者を募った。当日の参加者は4家族12名で、参加者の属性は保護者6名、児童・兄弟6名だった。</p> <p>参加者は、山形市立第一小学校の児童が中心で中心市街地のまちづくりについて簡単な講話を聞いた後、好みの花を選んでもらい、プランターに花を植えた。その後、御殿堰に移動し、プランターを設置した。社会実験開始前と御殿堰での花壇設置後の計2回アンケート調査を行った。</p> <p>また花を植えた1ヶ月間御殿堰に花を飾り、その後花をしおりにして参加者に送付した。</p> <p>設置期間中は山形市役所の職員、近隣店舗の従業員の方に水やりなどに多大な協力をいただいた。</p> <p>《実施した効果》</p> <p>この実験を行い、実験の前後で参加者の感情がどのように変化したのかをPANASによって計測した。</p> <ul style="list-style-type: none">• 活動によって、参加者の感情はポジティブに変化した。大人は社会参画意識の醸成により「誇らしさ」を感じ、子どもは活動を通して「幸福感」を感じるようになった。• 活動によって、御殿堰に対して大人は親近感や魅力をより感じるようになり、子どもは愛着を感じるようになった。 <p>地方自治体や企業が行うハード面での中心市街地の活性化とともに、地域住民自らがまちづくりに関わることによって、中心市街地の求心力の維持や持続的な地域愛着の醸成のほかにも社会参画意識を育むことができる可能性が示唆された。</p> <p>これら一連の準備、実施、調査は大学院の講義の一環として行い、院生が主体的に取り組んだことで教育的効果も得られた。</p>	

(裏面あり)

実施スケジュール	≪スケジュール≫ 8月18日(日) 9:00-9:10 受付(山形市立第一小学校・多目的室) 9:10-9:30 説明(全体の流れについて)→アンケート① 9:30-9:40 まちづくりについての講話(10分) 9:40-9:50 デザイン・花植え準備 9:50-10:50 デザイン・花植え 10:50-11:10 御殿堰に移動 11:10-11:20 説明(設置方法についてなど) 11:20-12:20 花壇設置 12:20-13:00 説明(1ヶ月間の水やりのアナウンス、写真撮影など)→アンケート②						
支援金の用途報告	合計 74,098 円						
	(内訳)	(品名・用途 他)	(数)	×	(単価)	=	(金額)
	印刷製本費	プリント代一式	1	×	6,600	=	6600円
	消耗品費	マリーゴールド等一式	1	×	12,652	=	12652円
	消耗品費	文房具等一式	1	×	30,261	=	30261円
	消耗品費	ペットボトル飲料水一式	1	×	5,191	=	5191円
消耗品費	土一式	1	×	9,460	=	9460円	
次年度の計画について	次年度も花植えが継続できるよう、プランターの土を整えとともに、市役所と連携していく						
本事業へのご意見・要望	本事業の支援のおかげで社会実験に取り組むことができ心より感謝しております。ありがとうございました。						
活動に関するHPや情報がございましたら、URLの添付をお願いいたします。							

1 この報告書はA4版表裏1枚以内で作成の上、メールに添付して提出してください。

問い合わせ先：山形大学総務部総務課社会共創推進事務室
 TEL：023-628-4615 MAIL：yu-shakaikyousou@jm.kj.yamagata-u.ac.jp